

令和 2 年 7 月 3 日現在

機関番号：34415  
 研究種目：基盤研究(C)（一般）  
 研究期間：2017～2019  
 課題番号：16K04402  
 研究課題名（和文）女性乳がん体験者の病の体験過程およびそれに関わる要因についての心理臨床学的研究

研究課題名（英文）A clinical psychological study on the illness experience and factors related to it in breast cancer survivors

研究代表者  
 駿地 真由美（Suruji, Mayumi）  
 追手門学院大学・心理学部・准教授

研究者番号：10388217  
 交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 1,900,000円

研究成果の概要（和文）：乳がんは、わが国の女性のがんの中で最多を占め、長期にわたって心身の危機をもたらす事態である。本研究では、乳がんサバイバーの「病の体験」に着目し、その理解と、関連する要因の検討を行った。その結果、病の体験は、もちろん苦しいものであるけれども、その後の人生におけるポジティブな変化の機会にもなりうることや、病いの経過や女性のライフサイクル全体の中で病の体験や援助のニーズを個別的に理解していく必要があること、また、ボディイメージや、配偶者など重要な他者との関係性が果たす役割などについて明らかになった。

#### 研究成果の学術的意義や社会的意義

乳がんの生存率が向上してきている現在、サバイバーのその後の人生の中で、乳がんという病がどのように体験され、どのように個々の人生に位置づけられていくか、それらに関わる要因は何かについて解明することは、非常に重要な現代的課題である。本研究では、その理解が進んだのみならず、乳がんサバイバー自らが病を主体的に引き受け、病を十全に生きることができるよう援助する心理臨床的アプローチについての具体的手掛かりも得ることができた。

研究成果の概要（英文）：Breast cancer is the most common cancer among women in Japan and can cause a long-term physical and mental crisis. This study was designed to understand the illness experience and examine factors related to it in breast cancer survivors. The results showed that the illness experience, while painful, can be an opportunity for positive change in later life, the need to understand the experience and the need for support individually during the course of the illness and throughout the women's life cycle, and the role of body image and relationships with significant others such as spouses.

研究分野：臨床心理学

キーワード：病の体験 心理的成長 ボディイメージ 病の不確かさ 身体への意識・態度 心理的well-being 心理的適応

## 様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

### 1. 研究開始当初の背景

昭和 56 年以降、現在に至るまで、わが国で死因の一位を占めるのは悪性新生物であるが、女性では乳がんが最多であり、その増加は著しい。また、乳がんは、他のがんに比べ生存率が高い一方、再発率も高く、再発すると完全治癒は困難で、死亡率が高いといった特徴を持つ。乳がんサバイバーは、先の見えない不確かさの中で、再発や転移などに対する不安を抱えながら、その後の長い生存期間をいかに生きていくかが問われていると言えよう。さらに、乳がんは、それががんであることと同時に、女性性や母性にもかかわる乳房の病気であるということから、女性にとっては非常にインパクトの強いものとなりうる。ライフサイクルや関係性の視点から病の体験を捉えることも重要であろう。

乳がんの生存率が向上してきている現在、サバイバーがその後の人生の中で、乳がんという病をどのように体験し、それをどのように自らの人生に位置づけていくか、それらに関わる要因は何かについて解明することは、心理的援助を考えることにも直結する非常に重要な現代的課題であると考えられる。

### 2. 研究の目的

乳がんサバイバーの経験している「病の体験」に着目し、(1) 乳がんという病の体験の諸相を理解すると同時に、(2) 病の体験過程およびその変容過程について時間軸の中で検討し、(3) 病の体験にかかわる要因の探索を行う。それにより、「病の体験」という視点に立った乳がんサバイバーに対する心理臨床学的アプローチについての手掛かりを得ることを目的とした。

### 3. 研究の方法

病の体験というきわめて個別的で主観的な体験を捉える上で、体験者本人の「語り」を分析することは必要不可欠である。そこでまず、(1) 病の語りについて計量テキスト分析を行い、前立腺がんサバイバーの語りとの相違も明らかにすることで、乳がんという病の体験の理解を試みた。また、病の語りについて修正版グラウンデッド・セオリー・アプローチを行うことで、時間軸の中でどのように病が体験され、変容していくか、かかわる要因は何かについての検討を行った。さらに、病の体験に関わる要因を明らかにし、要因間の関連を理解するため、3 回の web 調査を行い、得られたデータについて分析を行った。

### 4. 研究成果

#### (1) 乳がんという病の体験の理解

##### (1) - 診断時の年代、診断からの経過年数、治療法別にみた病の体験

NPO 法人「健康と病いの語りディベックス・ジャパン」による「健康と病いの語りデータアーカイブ」のうち、女性乳がんサバイバー 47 人 (平均年齢=50.49 歳、SD=11.30; 診断からの経過年数の平均 4.68 年、SD=3.45) の病についての語りデータを対象とした計量テキスト分析を行い、乳がんという病の体験へのアプローチを試みた。

診断時の年代別の分析では、若年者ほど、家族や友人・仲間、患者会といった身近な人々についての語りや、女性性・生殖についての語りが多く、40 代では仕事についての語り、20・30 代では再発・転移や結婚・妊娠・出産に関する語りが他の年代に比べて有意に多いことなどがわかった。また、診断からの経過年数による分析では、治療や生活の差し迫った事態から、身近な人々との関係性や、患者としてのアイデンティティについての語りへと、病の経過によって語りのテーマが変容していく様子が捉えられた。治療法別の分析では、たとえば、化学療法有群では無群に比べて【再発・転移】【経済・保険】【女性性・生殖】【家族】【仕事】に関する語りが多いなど、治療の内容やそれによる副作用が、生活や対人関係に影響を及ぼしていることが示唆された。

以上のことより、病の経過の中で、体験者の置かれた状況を鑑み、その体験世界や援助のニーズを個別的に理解していく必要があると考えられた。

##### (1) - 前立腺がんサバイバーの病の語りとの比較

乳がんサバイバーの病の体験の個別性を明らかにするため、前立腺がんサバイバーの病の語りとの比較検討を行った。対象は、NPO 法人「健康と病いの語りディベックス・ジャパン」による「健康と病いの語りデータアーカイブ」のうち、女性乳がんサバイバー 47 人 (平均年齢=50.49 歳、SD=11.30; 診断からの経過年数の平均 4.68 年、SD=3.45) と前立腺がんサバイバー 52 人 (平均年齢=69.46 歳、SD=8.00; 診断からの経過年数の平均 4.25 年、SD=3.24) の病についての語りのデータであった。計量テキスト分析を行ったところ、乳がんサバイバーでは、前立腺がんサバイバーと比べて、医療者やパートナー、子どもとの関係など、身近な人間関係や生活全般についての語りが多いことなどが明らかになり、また、問答の中で数値やデータを用いて語りが進められる前立腺がんサバイバーに対して、乳がんサバイバーでは、一回の発言に多様なテーマや情緒が自発的に織り込まれて語りが形成されていくなど、語り方にも違いがあることがわかった。さらに具体的な語りの精査からは、がんの特徴や、性別、年代等が複雑に絡まり、病の体験やその語りが生み出されていることが推察された。

## (2) 病の体験過程およびその変容過程についての検討

女性のライフサイクルや他者との関係性の中でどのように乳がんという病が体験され、体験過程が変容していくのかを明らかにするため、特に若年性乳がんに焦点を当て、「若年性」であること及び「関係の中で生きる」という観点から、若年性乳がんサバイバーの「病を生きる」体験過程を理解することを試みた。分析対象は、NPO 法人「健康と病いの語りディベックス・ジャパン」による「健康と病いの語りデータアーカイブ」のうち、診断時 35 歳未満の女性乳がんサバイバー 6 名(診断時の平均年齢=29.0 歳、SD=4.00; 診断からの経過年数の平均 5.83 年、SD=3.44)の病の語りデータであった。

修正版グラウンデッド・セオリー・アプローチによる分析を行った結果、若年性という要因により、告知は思いがけないものとなりやすく、治療も過酷なものとなりやすいこと、また、女性としてのアイデンティティやライフサイクルにも大きな影響があり、結婚や、妊娠・出産への不安などの苦悩を抱えやすいことなどが明らかになった。しかし、乳がん罹患は他者との関係性にも多大な影響を及ぼすが、ときに傷つきながらも、関係の中で支えられる体験を繰り返すことで、病を生きる過程が促進され、アイデンティティの発達や心理的成長がなされていくことが示された。知識や対処能力の不十分さ、若年性乳がんに対する支援体制の乏しさという、若さや若年性という要因により、関係性の中で現実的・情緒的サポートが非常に重要な役割を果たすことも示された。

## (3) 病の体験にかかわる要因について

### (3) - 心理的成長、QOL、ボディイメージの関連

これまで乳がんサバイバーの病の体験については、心理的苦痛という観点から研究されることが多かったが、多くの乳がんサバイバーが心理的成長 (PTG: posttraumatic growth) をも体験していることが近年わかってきている。従来、がんサバイバーへの援助においては QOL の向上が目指されてきたが、PTG は QOL とどのような関係にあるのだろうか。また、女性乳がんサバイバーにとってボディイメージのもつ意味は大きいと考えられるが、それは PTG や QOL とどのように関連しているのか。以上を検討することを目的に、女性乳がんサバイバー 579 名 (平均年齢=52.8 歳、SD=12.0; 診断からの経過年数の平均=96.8 月、SD=85.6) を対象とした Web 調査を実施した (調査期間: 2019 年 5 月 9 日~2019 年 5 月 11 日)。結果、QOL と PTG は直接的な関係にはないが、身体への肯定的イメージが媒介的にそれらに関わること、さらにその場合、手術を経験した群のほうが、ポジティブボディイメージの果たす役割が大きいことが示唆された。

### (3) - 病の不確かさと心理的成長、ボディイメージの関連

再発・転移への懸念を含めた「病の不確かさ」は、乳がんサバイバーが病とともに生きるプロセスにおいて大きなテーマであると考えられる。そこで、乳がんサバイバーの病の不確かさと、がん罹患に伴うポジティブな心理的成長である posttraumatic growth (PTG)、ボディイメージの関連に着目し、ソーシャルサポート認知を調整変数とした実証的検討を行った。対象は、女性乳がんサバイバー 500 名 (平均年齢=51.1 歳、SD=13.6; 診断からの経過年数の平均=93.1 月、SD=94.2) であり、インターネット上で調査を実施した (調査期間: 2020 年 1 月 14 日~2020 年 1 月 16 日)。

その結果、病の不確かさは、直接的にはボディイメージに負の影響を及ぼすが、病の不確かさが PTG を促進し、PTG がボディイメージにポジティブな影響を及ぼすことによって、間接的にボディイメージを肯定的に高めうることを示唆された。さらに、ソーシャルサポート認知を調整変数とした分析を行ったところ、サポート認知が高い場合には、不確かさは PTG を経由して間接的にポジティブボディイメージを高めるが、サポート認知が低い場合においては、不確かさは PTG を高めず、ボディイメージを低下させるのみであるなど、サポート認知による調整効果が示された。すなわち、一見ネガティブとも思える病の不確かさの状態が、病と共に生きる過程でのポジティブな変化の契機になりうること、その際、サポート認知の程度が重要であることが示された。

### (3) - 身体への意識・態度と、心理的 well-being、心理的適応との関連

女性乳がんサバイバーが病とともに生きていく過程において、自らの身体をどのように感じたり認知したりするかは非常に重大な課題であると考えられる。そこで、女性乳がんサバイバーの身体への意識と態度に着目し、それと心理的 well-being や、乳がんへの心理的適応との関連について検討することを目的とした Web 調査を行った (調査期間: 2020 年 2 月 17 日~2020 年 2 月 20 日)。仮説は次の 3 つであった。仮説 1: 自身の身体や身体で生じる事象を安定して受容できることが、がんへの心理的適応を促し、心理的 well-being につながるであろう。仮説 2: 身体を受容するためには、自身の外面的な身体や身体の不調に過度に囚われず、身体に耳を傾け、身体を尊重できるといった、身体感覚への肯定的な意識がその促進要因となるであろう。仮説 3: 配偶者からの情緒的サポートは、身体感覚への肯定的な態度や、身体を受容を促すであろう。調査は Web 上でを行い、対象は、乳がんを経験したことがあって現に配偶者のいる 20 代以上の女性 300 名 (平均年齢=52.2 歳、SD=12.5) とした。また、女性にとって乳がん罹患が身体とのかかわ

りや心理的 well-being に与える影響を理解するため、乳がんを含むがんを経験したことのない、現に配偶者のいる 20 代以上の女性 300 名(平均年齢=49.8 歳、SD=12.5)を対照群とした。結果、仮説はいずれもおおむね支持された。また、統制群との比較では、乳がんサバイバー群のほうが、人生の目的を見だし、自己を受容していることなどが明らかとなった。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計1件（うち査読付論文 0件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 1件）

|                                       |                     |
|---------------------------------------|---------------------|
| 1. 著者名<br>駿地真由美                       | 4. 巻<br>12          |
| 2. 論文標題<br>がん患者らの心理的苦痛に関する研究の展望       | 5. 発行年<br>2018年     |
| 3. 雑誌名<br>追手門学院大学心理学部紀要               | 6. 最初と最後の頁<br>13-38 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）<br>なし         | 査読の有無<br>無          |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスとしている（また、その予定である） | 国際共著<br>-           |

〔学会発表〕 計5件（うち招待講演 0件/うち国際学会 0件）

|   |
|---|
| 1. 発表者名<br>駿地真由美  |
| 2. 発表標題<br>女性乳がんサバイバーの病の不確かさとPTG、ボディイメージの関連 - ソーシャルサポート認知を調整変数として - |
| 3. 学会等名<br>日本心理臨床学会第39回大会   |
| 4. 発表年<br>2020年   |

|  |
|--|
| 1. 発表者名<br>駿地真由美   |
| 2. 発表標題<br>女性乳がん経験者のposttraumatic growthとQOLとの関連 - ボディ・イメージの観点から - |
| 3. 学会等名<br>日本健康心理学会第32回大会  |
| 4. 発表年<br>2019年  |

|   |
|---|
| 1. 発表者名<br>駿地真由美  |
| 2. 発表標題<br>若年性乳がんサバイバーの「病を生きる」体験過程 - 「若年性」及び「関係を生きる」という観点から - |
| 3. 学会等名<br>日本心理臨床学会第38回大会                                     |
| 4. 発表年<br>2019年   |

|  |
|--|
| 1. 発表者名<br>駿地眞由美                                   |
| 2. 発表標題<br>女性乳がん体験者の「病の語り」およびそれに関わる要因 計量テキスト分析を用いて |
| 3. 学会等名<br>日本健康心理学会第31回大会                          |
| 4. 発表年<br>2018年                                    |

|  |
|--|
| 1. 発表者名<br>駿地眞由美                               |
| 2. 発表標題<br>乳がん体験者および前立腺がん体験者の病の語り 計量テキスト分析を用いて |
| 3. 学会等名<br>日本心理臨床学会第37回大会                      |
| 4. 発表年<br>2018年                                |

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

| 氏名<br>(ローマ字氏名)<br>(研究者番号) | 所属研究機関・部局・職<br>(機関番号) | 備考 |
|---------------------------|-----------------------|----|
|---------------------------|-----------------------|----|